

先週、3 度目の降雪があり平年以上の積雪となっています。今年は平坦部と山沿い、山間部では積雪量に相当差があります。今週は寒さが緩むようですが、積雪の多いところでは圧雪状態の雪が序々に沈み込みますので作物上の雪をある程度のけることにより、畑に残っている秋野菜が押しつぶされることが回避できます。

また、果樹や庭木などの枝先が雪に埋もれたままとなっていますと、雪の沈下に従い主枝が折れたり、幼木では幹が裂けてしまう被害が発生しますので、掘り起こすか適当なところで枝を切っておきます。

### パレイショ特集 ( 後編 )

**イモの腐り** ( 腐敗性の病害によるものすべて種イモとしては不向きです。 )

種イモの腐りは、腐汁が健全な種イモにも影響を及ぼすので早急な対応が必要となります。種イモが届いたら、箱を開けて種イモを点検するなどの作業は是非とも行っていただきたいことです。この時に腐りイモが見受けられることがあります。腐りは掘り取り時や選別時、輸送時に発生した傷口から病菌が進入し発病することが多い。これらのイモを放って置くとしみだした汁が他の芋に付き、病気を伝播しますので取り除いてください。よくイモの表面に「ノ」の字状の亀裂 ( 爪痕状 ) が入っていることが多いが、これは圧迫・擦れによって部分的に強い力がかかったときにできる傷です。

#### 8、疫病

初期はイモの表面が数ミリ程度の規模で少しへこむ。凹んだ部分の皮をめくると茶褐色に着色しています。その後温度の上昇と多湿条件下で病状が進行し、2 次的に腐敗細菌に感染し、べとべと ( 軟腐状 ) に腐って来るようになる。



#### 9、軟腐病

イモの病状は皮目から侵入、べとべとに腐敗し悪臭を放っていることで容易に判別できる。

#### 10、乾腐病

掘り取り時や運搬時に、押されたり、傷ついたりして発生した傷口から菌が侵入し、貯蔵中に種イモが部分的に干からびた状態で陥没する。乾腐病の発病は気温の上昇と多湿で進展が早まる。ある程度病状が進むと、乾腐部分に白い菌糸が点々と盛り上がってくる。基本的にはべとべとには腐らない。



#### 11、その他

種イモに発生する障害はほかに皮面の荒れや虫害、形状異常、維管束褐変、目方不足などいくつかあります。目方については不良品の混入を見越して若干の余裕が見てあるものです。いずれにしてもクレームがあった場合は保管状況や取扱状況など基本的なことは聞いておいていただくとの確な対処ができると思いますのでよろしくお願ひします。

### イモの切断と催芽について

パレイショの植え付け前に種イモの切断作業がありますが、この作業について不適切な対応が

良く見られるので、正しい方法をご紹介します。

## 1、種イモの切断

植え付け直前に種イモを切断し、切り口に灰や石灰などをまぶすやり方が見られますが、これはよい方法とはいえません。基本としては植え付け時には切り口が充分乾いているようにしなければなりません。このためには植えつけ予定日の一週間程度前までに切断し、切り口には何もつけず乾かしておくことが望ましい。なお、種イモの切断の目安としては50g程度までの小さなイモはそのまま使います。これより大きいイモは目安として40~60g程度に切り分けて使用します。切り分けは頂芽を中心に一株当たりの茎数が3~4本以上確保できるように確認しながら縦に切断するのが基本です。

なお、種イモの切断作業において、腐りや黒変、褐変イモなどを切った場合は必ず刃物をよく洗浄してから作業を続けるようにしてください。切断後2日程度はシートや麻布で覆い、保温後乾燥させると切り口が治癒しやすくなります。

## 2、浴光催芽

浴光催芽とはジャガイモの植え付け前に、しっかりした芽を出しておくことにより種イモの腐りによる欠株を回避し、早い萌芽と揃った生育が期待できるなど良い点が多く最も適切な技術とされています。

方法は植え付け予定の約一ヶ月前(メークインは3週間ほど前)に種イモの切断を行います。切断したら温度が15~20程度確保できるところで日光の差し込む場所(納屋や2階の部屋の窓辺)にできれば重ねずに並べます。温度が上がりすぎる場所はイモが乾きすぎたり、黒変したりしますので避けます。こうしておくで3~4週間すると3~5mmの紫黒色のしっかりした芽ができます。植え付け前にこの芽を2~3個程度残すように掻き落して植えれば、後で茎をすぐる手間も省けます。また、切断後、切り口に灰などをまぶすことがよく行われますが、浴光催芽の場合も全く必要ありません。

## Q&A

Q：植え付け残りの種イモは食べられますか？

A：答えとしては「食べないほうが良いと思います。」と言うことになります。その理由は、種イモは基本的に非食用作物になりますので、種イモ産地での防除体系が食用のバレイショ生産に準じているかどうかの確認が難しいことにあるからです。

Q：昨年のジャガイモから芽が伸びているので、これを種イモとして使用できないか？

A：結論としては使用可能ですが収量は新たに購入した種イモに比べて生産性は明らかに劣ります。ジャガイモの初期萌芽の勢いは種イモの水分や栄養に拠ります。自家のイモは水分も抜けており萌芽の勢いが劣ります。また、ウィルス病などに感染している可能性も高く、伸びすぎている芽は植えつけても順調な生育は望めないなので掻き取っておく必要があります。

Q：ジャガイモのそうか病が毎年発生する。防除方法は？

A：ジャガイモのそうか病は一度発生すると、土壤中に菌が長く残るため、なかなか抑えることが困難です。専用の防除薬剤もありますが、家庭菜園にはおすすりできません。基本的な対策としては、連作をしない。健全な種イモを使う。そうか病は土壌PHが高いと菌が活動的になるので、石灰の施用はほかの野菜に撒く量の約半分とする。などです。また、鶏糞を多用することも発病を促進しますので、基本的にはジャガイモ作の前には投入しないようにしてください。